

香川大学の西成と申します。

皆さんの発表を楽しく聞かせていただきました。若輩者ですが、地域での活動は皆さまに比べまだまだなものがあります。わたしがこうして講評することは大変なこと、仰せつかったな、といつも思っています。少しでも皆さまにお返しできればと考えています。

きょう、取りあえず二つ発表がありました。弦打校区と塩江地区です。それぞれについてまずはコメントさせていただきます。

まず弦打校区ですが、発表自体も楽しいし、実際にやられている方が楽しまれていて、とすごく感じました。去年大賞を受賞し、今年は優秀賞とそれだけの活動をされているなど思いました。一番思ったのは、わたしは今回で3回目の講評をさせていただいているので、これまでどういう経緯があったのか少しは見

## デザイン生かし広がる活動

させていたでいています。年々活動が広がっていき、活動している人たちの幅も広がっているのが大変素晴らしいな、と思いました。

わたしも大学の立場で県内のほかの地区の、例えば観音寺市五郷地区とか、三豊市庄内半島の積地区、今は東かがわ市の水主地区に入りコミュニティの活性化のお手伝いをさせていただいています。なかなか自分たちで地区の活動を起こそうとしても、忙しいし、個人的事情もあり集まれにくい。

そういった中で活動を継続していくことだけでも大変です。わたし自身そばにいてよく分かりませんが、それが続いていくだけでもすごいのに、さらに小中の子たちを巻き込みながら新しい活動をどんどん展開しているのは「弦打モデル」と呼んでいいのかな。どうやって人を巻き付けながら増やすことができるのか、む

## 弦打校区のゆめづくり推進事業

香川大学経済学部准教授・西成典久

講評

されたというのは、大きな功績といえるのではと思います。歴史とか文化を探索していくことで、これまで語られてこなかった、地域にはすでに語られてこなかった、みんなで共有されてこなかった歴史を明らかにして資料館などをつくり歴史を共有していくことは、地域にとつてすごく重要な要素だと思います。

地区にある歴史的な資源をひもときながら、ここに、昔は塩江に温泉鉄道があった、それを知ること、さらにまちづくりの種につながるようなことが、今後どんどん生まれてくるように思っています。

きょう、塩江は少し遠いので小中の子たちが来るのは難しかったとは思いますが、発表の中には、小中の子たちを巻き込みながら活動されていることですので、多世代が交わりながら活動を深化し、未来がつながっていく

肌で感じました。これで前半の講評を終わらせていただきます。